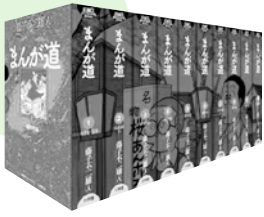


生涯の一冊
(26)

書名：『まんが道』（全10巻）
著者：藤子不二雄[Ⓐ]
発行者：(株)小学館クリエイティブ
発行年月：2012年11月

マンガ家
きりきり 桐木 憲一



1993年週刊少年ジャンプ第36回赤塚賞準入選。
2010年7月から週刊漫画ゴラク誌にて「東京シャッターガール」連載開始。
本作8話でトキワ荘を題材として南長崎を訪れた事がきっかけで豊島区の地域文化活動「トキワ荘通り協働プロジェクト」に参加。
都電荒川線を描いた回は「東京新聞ONWeb」「都電荒川線100周年記念ページ」のHPにも掲載された。

藤子不二雄をモデルとした二人組・満貫道雄と才野茂が、富山県高岡市からマンガ家になる事を夢見て上京し、手塚治虫や寺田ヒロオ、石ノ森章太郎や赤塚不二夫など、実在のマンガ家達とやり取りをしながらマンガ家として少しずつ成長して

『まんが道』というアパートが有名になった一番の要因は、藤子不二雄[Ⓐ]の自伝的マンガ作品『まんが道』の主な舞台としてとりあげられた事による。

『まんが道』

いく様子を描いていく物語。

『まんが道』がマンガ家、マンガ家として特徴的なのは、作中に当時の自分達が執筆した作品やマンガ雑誌、影響を受けた映画などの資料が事細かく描写されている点。トキワ荘、や、中華食堂松葉、落合電話局、等の舞台設定も現実にあった場所に基いているためにマンガと現実との距離感が近く感じられる。物語の舞台となっている場所に実際に足を運べる事は読者との親和性を高め、作品世界の中により深く没入している大きな要素になっている。そのことが長期に渡ってマンガ家志望者やそれ以外の読者層にも長く支持さ

現在自分は、かつて、トキワ荘のあった街・豊島区南長崎でマンガを描いている。自分が作品を執筆しているアパートは、かつてのトキワ荘のはず向かいにあり、ギャグ漫画の巨匠・赤塚不二夫先生が居住していた……。

現在、トキワ荘は解体され、落合電話局はN-TTに建て替わったが、中華食堂松葉は今も営業中で、自分も事ある事に通っている。『まんが道』に描かれている世界は現実と地続きの現在進行形の物語なのだ。

れ続けている要因の一つであるように思う。

図書館と私 14

上池袋図書館運営専門員
鶴我 仁

児童サービスを任されて

私が図書館で働きはじめたのは今から6年ほど前の事だ。子どものころ自宅の隣が図書館だったので、当時はそれなりに慣れ親しんだものだったが、以後はほとんど利用することが無くなっていった。ましてや数年前までは「図書館で働く」ということなどこれっぽちも考えていなかったのだから、人生とはわからないものである。子どものころの経験というものは、その後の人生に大きな影響を与えるということであろうか。

職員として採用されるや否や、これまたそれまでに一秒たりとも考えたことなかった児童サービス担当に任命された。「何かの間違いでは?」「こんな野暮ったい風体のガサツな男に、乳幼児も相手にする児童担当の仕事がはたして務まるのだろうか?」「もしかしてイベント準備などの力仕事用の要員?」などと、当時は思ったものだったが……。

しかし、児童の仕事、これがやってみるとなかなか楽しいのだ。子どもたちは本当に素直である。楽しいお話を聞かせると、心から

喜んでくれる。そして私も、その子どもたちの喜ぶ顔からたくさん力をもらうのである。だが、この仕事はそれほど簡単ではない。専門性や蓄積が必要だし、なにより直接児童と触れ合う機会も多いだけに適性がないとやっていくのはなかなか難しい。私には幸いにもある程度の適性があつたようだ。自分の考える自己像というものは、あまりあてにならないものようだ。

子どもの成長に係わる仕事というのは、とてもやりがいのある仕事である。おはなしかいに来てくれる今の子どもたちは、ものすごい量のおはなしのシャワーを浴びて育っている。この子たちは一体どんな人間になっていくのだろうと考えると、ちょっと末恐ろしい……ではなく、とても楽しみである。きっと、豊かで楽しくしなやかな人生を歩んでくれるだろう。そんなことを思いながら、そして、子どもの人生に影響を与える責任を大いに感じながら、私は日々この仕事を続けていく。

ザ・レファレンス

—豊島区の歴史・文化がわかる本⑫—
(最終回)

ご案内：秋山 伸一（あきやま しんいち） 郷土資料館学芸員

急激な生活様式の変化により、日常生活で使う道具類もほとんど変わってきています。数年前までパソコンを使う際の必需品だったフロッピーディスクも、今や使っている人はほとんどいませんし、デジタルカメラが主流の昨今、フィルムカメラも一般の方はあまり使いません。

さて、豊島区内の公立小学校に通う3年生は、ちょうどこの時期、社会科の「くらしのうつりかわり」という授業のなかで、むかしのくらしについて勉強します。私は、昨年郷土資料館に展示してあった黒電話の使い方を聞かれて驚き、思わずのけぞった記憶がありますが、確かに子どもたちにとって、ダイヤル式の電話はふだんの生活で目にするものではなく、その使い方を知らないのも無理はありません。ただし、電話のみならず、あるモノがどのような変遷を経て現在のモノに至ったのを知ることが、有意義なことでしょう。

以下、豊島区に限りませんが、かつての人々の暮らしに密接に関わっていた道具類を取り上げている本のいくつかを紹介します。

小林克監修『昔のくらしの道具事典』（岩崎書店、2004年）は、羽釜や洗濯板など、かつて使われていたものの、次第に家電製品に変わっていったものを中心に、様々な生活道具を紹介しています。ちなみに、上に掲げた「蚊帳」についても取り上げていますのでご参照ください。久保

小学生の子どもから「蚊帳（かや）ってどういうもの?」と聞かれ困っています。説明するのに便利な図入りの本はないでしょうか?

尤書編『家電製品にみる暮らしの戦後史』（ミロン書房、1991年）は、家電製品の変遷に絞って取り上げたもので、各時代を象徴する事件や世相の紹介とともに説明が加えられ、わかりやすい内容となっています。小泉和子著『台所道具いまむかし』（平凡社、1994年）は、日本の伝統の食文化を支えてきた台所道具が、昭和30年代を境に一変し、道具の変化によって食材や味覚の変化をもたらしたことを、絵や写真などを用いて解説しています。さらに、服部幸應他監修『ニッポンの名前』（淡交社、2006年）は、より広く和食の食材と器・道具、和装と伝統芸能、和風建築と生活道具、神社仏閣と冠婚葬祭など、日本人の暮らしにまつわる様々な名前を、写真とイラストを用いて紹介しています。家族で楽しみ、また勉強になる一冊です。

ここで紹介した4冊は、いずれも多くの図版が使用され、バラバラとながめるだけでも楽しめます。冬の寒い夜、一家団らんのひと時に活用されてはいかがでしょうか?

最後になりましたが、3年間12回にわたり連載してまいりました「ザ・レファレンス」、今号をもちましてひとまず終了といたします。ご愛読いただきありがとうございました。池袋西口にある郷土資料館へもぜひ足をお運びください。

豊島区内の「川」の話

伊藤 榮洪
(豊島区図書館専門研究員)

特別寄稿

昨年開催された地域研究ゼミナール「道・路・みち」の中で、伊藤榮洪先生より、「豊島区の川」についてのお話がありました。大変好評でしたので、今回は伊藤先生に特別に寄稿していただきました。

現在の豊島区内の土地に、どれだけの川があったのか、遠い古代からのことは全くわからず。江戸のころの様子もはっきりしてないところが多い。

そもそも、「川」とはどんなものか、手元の辞書でも、ひとつのは「雨水が溜って低地を流れるもの」という説明もある。日本で最大の国語辞書である小学館発行の『日本国語大辞典』(全20巻)での説明は、「地表に集った水が傾斜した陸地のくぼんだ所を流れるもの」とだけ説明し、あとは用例や古典での用語の使用例を並べているだけである。どれだけの水量か、どれほどの長さで流れるのが「川」というものなのかは遂にわからず。単に、「この辞典の説明だけに依れば、こうした「川」はすいぶん多くあったといえるのだ。しかし、その流路など、今日ではもうはっきりしないものがほとんど。たとえば、学習院内に「血洗いの池」として区内で唯一、「昔からの」池があり、この池は現在ほとんど干まり小さくなっているが、あたり

の地形から見ても、江戸のころはもっと大きなものだったと思われる。この池から流れ出る「川」は、高田村の農業用水として利用されていたのだが、その流れ下るころは今日では確かめようがない。長崎村高松に名もつけられてない池があった。高松小学校運動場正面に、池から流れ出る小川があった。川幅は1.5メートルくらいで、この川で農民たちは、収穫した野菜を洗っていたという。地形で川の流れがよくないので、鰻を放つて地を掘らせていた。その鰻には銭形の紋があって「銭形うなぎ」と呼ばれ、この鰻を捕って食べる目がつぶれると言いならしていたという話は伝わっているが、その「川」の流路は土地の人でもわからなくなっている。「細流」といっていいことだった「川」は、区内の各地にあったようだ。集鴨の古い表記が、「洲処面」となっているのは、それを表しているのだと思う。

区内を流れる川でよく知られているのは、池袋駅西口のところの池から流れ出て雑司ヶ谷村を流らぬいていた布引川(法明寺のところの池の水を集めたあたりから、弦巻川と名を代えていた)と、集鴨御菜園(現在の東京青果市場)の長池からの谷戸(田川(北区側に流れて藍染川と名を代えた)、長崎村栗島神社の池からの谷端川(のちに、千川上水からも取水して区内外の広い範囲の農業用水として使用された)の三つである。ほかに流れていた川で名の付けられていないのは、いくらでもあったようだ。

谷戸川で興味をひくのは、「一部で、ほたる川」とか、「しじみ川」と呼ばれていたことだ。そう呼ばれる事実があったのだろう。現在の「駒込銀座通り商店街」のところを流れ、昭和の初めに暗渠となっている。

谷端川は、長崎村の栗島神社の池を水源として流れ出た川で、現在の神社内の池はその名残りだが、往昔の池は「8」の字形のもので広いものだった。すべ脇のところには今は廃校になっ

た区立平和小学校があった。この小学校の運動場の地下には、現在も地下水の流れがあるということからも、その池の大きさが想像できる。それでも農地の開発がすすむれば水不足となって千川上水からの取水が避けられなかったのだ。長崎村では、この谷端川から水を引いて傍流を作った。川床に砂が多かったので「砂川」とよばれたという。明治のころの地図にはその川が出てくる。古老のお話では、その中間地で「稲作」を行っていたということだ。長崎村だけでなく、区内の農地はだいたい「高台で、かわいている平地」と明治の初めの記録にあるように、畑作がほとんどで、農業用水に苦しんでいたようだ。夏の「雨乞い」は各地に残っている。

この長崎村を流れる谷端川に「流れ灌頂」という奇習があった。妊婦の死者に対する呪術的な供養法で「洗ひ晒し」とも呼ばれるものである。身ごもったまま亡くなったり、産後、子を産してみまかった女性の成仏を願って、千四杯の水をかけて叩くという、土俗的信仰である。川の両岸に二本ずつ竹を立て、これに経文を書いた白布の4隅を結びつけたのに、通行人に水をかけてもらうというものである。それがとても怖かった、という話を聞いたが、昭和初期まで残っていたらしい。

谷端川の堤橋(千早一丁目と長崎二丁目の境)あたりだったと古者が語っている。「流れ灌頂」は、新宿区のもので四谷にもあったというが、ほかでは耳にしない。現在でも愛知県豊橋の方に残っていると聞く。



栗島神社 (撮影: 豊島区立中央図書館)

あうるすぽっとからのお知らせ

【あうるすぽっと JAZZ WEEK】

『Once Upon a Time... あの頃の歌』

戦後から高度経済成長の時代、街に流れた歌謡曲や映画音楽など懐かしいメロディ。そんな懐かしい名曲たちが日本を代表するジャズピアニストにして作・編曲家の佐藤彦彦の手によってどこか懐かしい、でも新しいジャズテイストで生まれかわります。また、映画や音楽に関する著作も多いイラストレーター和田誠の興味深いトリビアも楽しみに。

○演奏予定曲: 胸の振り子、フライ・ミー・トゥ・ザ・ムーン ほか

○出演: 佐藤彦彦 (構成/ピアノ) 和田誠 (監修/お話) 加藤真一 (ベース) 村上寛 (ドラムス) 上杉亜希子 (ヴォーカル)

○日時: 1月26日(土) 18:00開演 (17:30開場/17:00カフェ open)

○チケット: 全席指定 (ワンドリンク付)

・一般 4,000円

★豊島区民割引 3,500円 (要証明書提示)

『和田誠ポスター展』

『週刊文春』表紙やたばこ「ハイライト」のパッケージデザイン、「ゴールデン洋画劇場」のオープニングタイトルなど、昭和の時代から現在まで活躍し続けているデザイナー・和田誠のポスター展を開催。和田が自ら選んだ秀作、約30点にあわせ貴重な資料を公開、時代とともにある彼の仕事の足跡をたどります。きつとどこかで目にしたポスターに出会えるはず。是非ご来場ください。

開催日時: 1月22日(火)~26日(土) 12:00~18:00

入場料: 無料

場所: あうるすぽっとハワイエ

『Jazz・Don!!』

関連企画として『Jazz・Don!!』の開催が決定!

次世代を担うフレッシュなミュージシャン6組が2日間にわたってライブをお贈りします。お楽しみに!

開催日時: 1月24日(木)19:00開演 /

25日(金)19:00開演

出演:

[24日]大口俊輔、守屋純子クインテット ほか

[25日]熊田千穂、松田美緒、minga 5 ほか

チケット: 1,000円

【取扱い】

■イープラス <http://eplus.jp/> (パソコン・携帯)

■あうるすぽっとチケットコール 03-5391-0516

(10:00-19:00/3階事務室にて販売) ほか



図書館イベント情報

◆児童・あかちゃんおはなし会

毎週、おはなし会を開催し本の読み聞かせなどイベントを行っています。遊びに来てくださいな。

- 各図書館の連絡先
- 中央図書館 3983-7861
 - 池袋図書館 3985-7981
 - 駒込図書館 3940-5751
 - 目白図書館 3950-7121
 - 巣鴨図書館 3910-3608
 - 千早図書館 3955-8361
 - 上池袋図書館 3940-1779
 - 雑司が谷図書貸出コーナー 3590-1335

主催/会場	おはなし会開催日		スペシャルイベント		
	幼児・小学生	あかちゃん	1月	2月	3月
中央図書館 児童コーナー (※印は会議室)	日曜日 午後2時	最終日曜日 午前11時	★6日・おはなしこうさくかい 午後2時 ★27日・ボランティア団体によるおはなし会 午後2時 (豊島区親子読書連絡会)	★3日・おはなしこうさくかい 午後2時 ★24日・ボランティア団体によるおはなし会 午後2時 (巣鴨親子読書会)	★3日・おはなしこうさくかい 午後2時
駒込図書館 (駒込地域文化 創造館)	土曜日 午後3時	—			★1日(金)・こどもえいかかい 午後2時
巣鴨図書館 地下会議室	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時	★9日・ほんのじかん カルタ大会 午後3時 ★30日・ほんのじかん こうさくかい 午後3時 「節分」	★20日・ほんのじかん こどもえいかかい 午後3時 「スノーマン」(26分) ★27日・ほんのじかん こうさくかい 午後3時 「おひなさま」	★27日・ほんのじかん スライド 午後3時
上池袋図書館 おはなしのへや (※印は地下 ホール)	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時※	★9日・さくらんぼかるた大会 午後3時※ ★30日・さくらんぼえいかかい 午後3時※ 「福は内、鬼は外」(11分) 「ひつじのようなライオン」(8分)		★27日・さくらんぼえいかかい 午後3時※ 「ためきの糸車」(12分) 「花いっぱいになあれ」(12分)
池袋図書館 ワークルーム	土曜日 午後2時	—	★12日・たんぼぼカルタかい 午後2時 ★26日・たんぼぼえいかかい 午後2時 「スノーマン」(26分)	★16日・たんぼぼこうさくかい 午後2時 「春の壁飾り作り」 ★23日・たんぼぼえいかかい 午後2時 「大造じいさんとがん」(23分)	★23日・たんぼぼえいかかい 午後2時 「水仙月の四日」(12分)
目白図書館 地下区民集会室	水曜日 午後3時	第1水曜日 午前11時	★30日・しんしゅんかるたかい 午後3時	★27日・かきくけこうさくかい 午後3時 「はるはもうすぐ〜ひらひらチョウチョー」	★27日・めじろシアター 午後3時 スライド「はなともぐら」・「おやゆびひめ」
千早図書館 視聴覚室	水曜日 午後3時30分	水曜日 午前10時30分	毎週水曜日に2回(午前・午後)、おはなし会を開催しています。		

日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合せください。

図書館からのお知らせ

受講生募集

豊島区子どもの読書に関する講習会 受講生募集

「心をつなぐ 読み聞かせ」

【内容】 本の紹介を交えながら、子どもの成長にあわせた本の選び方や読み聞かせ方、集団への読み聞かせの方法などを、お話しいただきます。

【講師】 児玉 ひろ美 (こだま ひろみ) 氏
 ※一般財団法人 出版文化産業振興財団(略称JPIC) 読書アドバイザー。公共図書館司書。
 図書館・学校・幼稚園の職員研修、ボランティア養成講座などを通じて子どもの読書環境を整える活動に専従。厚生労働省社会保障審議会児童福祉文化財出版部門審議委員。
 連載 小学館月刊誌「Edu」「幼児と保育」
 共著 「10代をよりよく生きる読書案内」「同：海外編」東京書籍
 「別冊太陽 心をつなぐ読み聞かせ」「同：続編」平凡社

- 日時 平成25年2月1日(金) 10時30分～12時30分(開場：10時15分)
- 会場 あうるすぽっと 会議室B (豊島区東池袋4-5-2 ライズアリーナビル3階)
- 費用 無料 募集 70名
- 対象 豊島区内の幼稚園・小学校・児童館など教育・福祉施設で読み聞かせボランティアをしている方。また、子どもたちに向けた読み聞かせに関心のある豊島区民の方。
- 申し込み 平成25年1月11日(金) 午前10時より
中央図書館カウンターまたは電話にて申し込み
(先着順に受講者決定。定員に達し次第締め切り)
- 保育 あり(未就学児5名程度。事前申込が必要。先着順。)



【問い合わせ】 豊島区立中央図書館 児童・YAグループ 電話 03-3983-7861

○千早図書館友の会主催○

「千早進歩自由夢月例会」

※申込不要ですが、定員は50名です(先着順)

◆千早進歩自由夢(2月例会) 三遊亭窓輝師匠「落語会」

日時 2月9日(土)
10時から12時(開場：9時30分)

会場 千早図書館 2階 視聴覚室

出演 三遊亭窓輝師匠

口演内容 毎年恒例の「落語会」、昨年に引き続き豊島区千早出身である三遊亭窓輝師匠の登場です。

演題等は当日のお楽しみです。

出演者略歴 1970年 豊島区千早生まれ
1995年 六代目三遊亭圓窓に入門
1999年 二ツ目昇進
2010年 真打昇進

定員 50名(先着順)

◆千早進歩自由夢(3月例会)

講演会「松尾芭蕉『おくのほそ道』について」

日程 3月16日(土)
14時から16時(開場：13時30分)

会場 千早図書館 2階 視聴覚室

講師 立堀隆三氏(楽学塾塾長)

講演内容 楽学塾の「かさね朗読会」会員が、「おくのほそ道」のいくつかの章を朗読します。その後、立堀氏が芭蕉に関する講演をいたします。

テーマは「芭蕉はなぜ旅に出たか？」
芭蕉を語るうえで非常に重要なテーマを、ソフトでかつユーモアあふれる口調で語っていただきます。

すでにお持ちの方は「おくのほそ道」をご持参ください。

講師略歴 都立葛飾野高校教諭、都立足立高校校長、帝京大学講師などを歴任。
他にクラブツーリズム 文学・歴史散歩クラブ顧問・講師など。

定員 50名(先着順)

図書館カレンダー

中央図書館	駒込・巣鴨・上池袋・池袋・目白・千早図書館	雑司が谷図書貸出コーナー
開館時間 平日 午前10時～午後10時 土日祝 午前10時～午後6時	開館時間 平日 午前9時～午後7時 土日祝 午前9時～午後5時	開館時間 平日 午前10時～午後7時 土日祝 午前10時～午後5時
1月 ① 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1月 ① 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1月 ① 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
2月 ③ 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	2月 ③ 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	2月 ③ 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28
3月 ③ 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	3月 ③ 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	3月 ③ 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

編集後記

ご愛読いただきありがとうございます。今年も利用者の皆さまに有益な情報をお届けできるよう、誌面を工夫していきたいと思っております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。(恩)